

## 口腔機能の維持・向上による全身状態改善のための オーラルケア・マネジメント実践マニュアル

社団法人日本歯科衛生士会会長／金澤紀子



B5判／112頁  
定価 2,940円  
(本体 2,800円＋税 5%)  
医歯薬出版刊  
(2010年10月発行)

今日、「口腔ケア」や「摂食・嚥下」はチーム医療におけるキーワードであり、多職種連携の共通言語として、その重要性が認識され、医療と介護をつなぐ架け橋として、シームレスな展開が求められています。それでは、病院、施設、在宅のどのステージにおいても、患者さんの食べる楽しみを維持し、誤嚥性肺炎などの発症を予防し、その結果として、地域住民の健康を守り、医療費減少などにも寄与する、このようなことがどうすれば可能なのか。本書は、京丹後市立久美浜病院における取り組みを具体的に紹介しながら、その実践例をマニュアル化し、多職種共通の書として初心者にもわかりやすく解説しています。

本書を貫くテーマは、「オーラルケア・マネジメント」ですが、オーラルケアに関して、狭義には「口腔清掃による気道感染予防と摂食・嚥下機能の維持・向上による口腔機能の向上」、広義には「気道感染予防・口腔機能の向上により、低栄養を予防し、食べる楽しみを向上し、体力・意欲・行動力の向上、生きる楽しみ・QOLの向上を目指すもの」と定義し、多職種協働によるオーラルケア・マ

ネジメントが重要であると提言しています。

マネジメントとは「共通の目標・価値観をもつ人たちが、適切な組織をつくり、訓練と研鑽によって、共同で成果をあげられるようにすること」と考えられていますが、久美浜病院の活動は、オーラルケアの価値観と目標を共有し、病院、施設のスタッフや地域住民が一体化して取り組み、共同の成果をあげている先進的な事例といっても過言ではないでしょう。

久美浜病院は、高齢化率の高い京都府京丹後市の地域中核病院として、保健・医療・介護を一体化した地域包括医療・ケアを理念として医療活動を行い、その結果、地域住民の健康が向上し、医療費の低減が図られていることを実証しています。これらの実績をベースに、2004年から歯科医師、歯科衛生士の介入による病院・施設・在宅へのオーラルケア・マネジメントを導入し、患者さんの入院延べ日数で65%、誤嚥性肺炎による年間医療費72%の減少という驚異的な成果をあげており、その実践例を具体的に紹介しています。巻末の奥田聖介病院長と本書の監修にあたった別所和久教授(京都大学大学院)の対談では、医療における口腔の重要性について指摘し、オーラルケア・マネジメントが医科歯科連携の突破口になることを力強く示唆しています。

このようなオーラルケア・マネジメントを各病院、施設で導入するための実践の書として、また、歯科衛生士が多職種協働の医療現場に一步踏み出すための必読の書として一読することをお勧めします。